



活動紹介 NO. 30

坪内逍遙博士顕彰会



坪内逍遙顕彰会(石崎彰会長)の会員25人が2月17日、美濃加茂市太田本町の太田小学校に隣接する逍遙公園の清掃作業を行いました。逍遙公園は、太田小学校の児童が「そうじの時間」に清掃活動を行っており、今回の作業では児童らではできない逍遙顕彰碑の清掃や樹木の剪定作業を中心に行いました。このうち、顕彰碑の本格的な清掃は、5年ぶりということでした。

顕彰碑のまわりに掃除用の足場を組み、たわしやブラシを使って長年の汚れやコケなどを落とし、剪定ばさみやのこぎりなどを使い、伸びた枝や不要な枝を取り除いていきました。



坪内逍遙(1859～1935)



政6年(1859年)、美濃加茂の地に生まれる。人間の心の葛藤をありのままに描く写実主義を提唱し、日本の近代文学に計り知れない影響を与えた文豪です。東京大学卒業後、26歳にして革新的な文学論『小説神髓』や『当世書生気質』を著した逍遙。その功績は文学の世界ばかりではありません。早稲田大学教授、早稲田中学校校長として、教育の分野にも尽力。また、20年がかりで『シェクスピア全集』の完訳に取り組み、演劇の世界にも偉大な足跡を残しました。

坪内逍遙博士顕彰会とは、逍遙の遺徳と業績、郷土文化の発展に寄与することを目的とした文化団体です。会員数は、217人。(平成25年2月17日現在)

問い合わせは、みのかも文化の森 事務局(28-1110)へお願いします。

美濃加茂市出身の文豪坪内逍遙が亡くなった2月28日に、逍遙の偉業をたたえる「逍遙をしのぶ会」を毎年行っています、その催しまで二週間を切ったこの日、清掃作業を行いました。

地域の人たちにより、逍遙の業績は語り継がれています。そういった人たちが綺麗にした公園を、ぜひ多くの人たちに訪れていただき、逍遙を感じてもらえればうれしいです。



石崎 彰会長